陰進

週刊

2024年
8月　第2週

発行元
最前線
anarcho.clitorist@gmail.com
担当・記事　仁科　夏瑚
記事　パノプティコンの真ん中にいる人

保存用　紙版
1ヶ月　500円

月毎に郵送いたします。
詳細は上記連絡先まで

混沌の8・6、その日の広島は
平和記念式典を現地取材

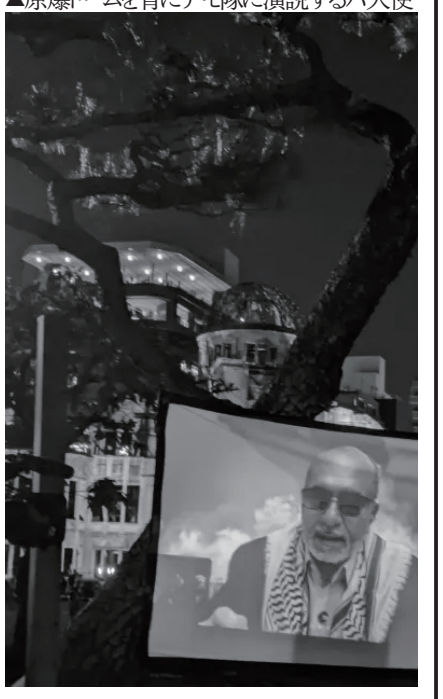
去る8月6日、広島市は79回目となる平和式典を開催した。駐日イスラエル大使が出席することに反対するデモ開催が告知され、広島市が会場の警備強化を図る中、筆者は6日早朝から深夜まで取材を行なった。

「闘争」は日が昇る前から行われていた。5日22時から、「8・6ヒロシマ大行動実行委員会」による原爆ドーム前での座り込みが始まり、洞口朋子杉並区議や役者の右田隆などの著名人も参加した。数十人の警官隊に囲まれる中、6日午前2時頃には右翼系の「民族自警団日本暁乃会」所属と見られる者が接近し小競り合いが発生。警官隊も介入した。

式典に向け、会場周辺が侵入禁止となる午前5時以降、機動隊含めた警察・市職員による排除の試みが始まった。機動隊員が車上から松井市長の退去要請を読み上げ、デモ隊はシュプレヒコールを返す応酬が繰り返されたが、お互い実力行使に踏み切ることはなく、結果デモは予定通りに完遂された。

「立ち見」が発生するほどの人が集まった式典は、荷物チェックと金属探知機の二段構えの入場規制が行われた。ただ、両者とも、カバンの中身を一瞥するだけ、ポケットに入れたままにしてしまった鍵も検知されないと「ザル」ではあった。式典会場内でも、イスラエル批判のボードを高く掲げて歩く者の姿が見えた。また、式典後半には、会場の対岸を行進するデモ隊による声がかすかに会場内に届いた。

▲原爆ドームを背にデモ隊に演説するパ大使



▼座り込みに介入しようとした右翼団体の人物が警察に連行される様子

式典後には、日蓮宗系で「左翼」的とされる日本山妙法寺所属と見られる僧侶の一団が「南無妙法蓮華経」を唱え行脚を行い、ドーム前の出入り口では顕正会信者がビラを配布した。また、市内では全学連（中核派系）や全国学生行動連絡会によるデモ行進が行われ、その他多種多様な団体・個人による集会も各所で開かれた。

18時からは、ドーム前（19時半よりドーム対岸）で市内在住のアーティスト安藤健史氏による「市民によるオルタナティブ平和式典」が開かれ、オンラインでのパレスチナ大使のスピーチやレイヴが行われた。レイヴ中「音量が大きい」と広島県警の警官が訪れたが、交渉が行われ大事には至らなかった。

全国の右翼から左翼、果ては宗教団体までもが一堂に会した「8・6」。この日の広島を見れば、日本の「運動」の様相を端的に知ることができるだろう。（文：パノプティコンの真ん中にいる人）

広島と長崎 分かれる姿勢

八月六日と八月九日。今年、広島・長崎でそれぞれ行われた式典では、自治体の姿勢の違いが浮き彫りになった。

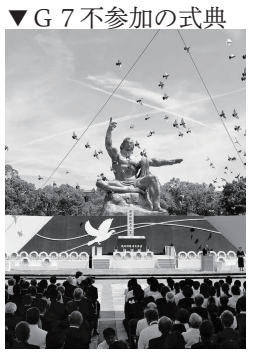
広島市は今年から、平和記念式典に伴う入場規制を会場の外まで拡大することを決定。昨年のデモ団体の一部が市職員に暴行を加えたとして逮捕・起訴されたことが理由のようだ。主要メディアは、デモ隊排除失敗により、「静粛な式典」の進行が妨げられたと報じている。

また、左翼系の団体や個人からは、広島市がパレスチナを招待せず、イスラエルを招待したことを批判する声が大きく上がった。これは長崎市の対応と真逆のもの。両市とも、二〇二二年からはロシア及びベラルーシを招待していない。

広島市がロシアを招待しなかったにも関わらず、イスラエルを招待したのは、はっきり言えば西洋諸国への同調でしかない。このような「勝ち馬」に乗っておきながら、被爆地としての立場を殊更に主張する欺瞞的態度は批判されて当然である。そもそも日本が戦争侵略国であるという歴史を、広島市は忘却している。

では、長崎市の場合はどうか。長崎は歴史的に、朝鮮系や華人、またキリスト教徒などが多く住み、広島よりも複雑な事情を抱えてきた。そのことから、日本の加害性に自覚的にならざるを得ず、広島のように大々的に被害者アピールをすることができなかった。今回のイスラエル不招待も、そうしたシリアスな認識ゆえだろう。

▼G7不参加の式典



しかし、いくらイスラエル側の報復が過大とはいえ、論理的に考えれば、二〇二三年からの軍事侵攻の原因はハマスのテロにある。長崎市がパレスチナだけを招待することを肯定しうる理屈はあるだろうか。パレスチナもまた、純粋な被害者ではない。長崎市の対応もまた、別種の党派的利害に過ぎない。

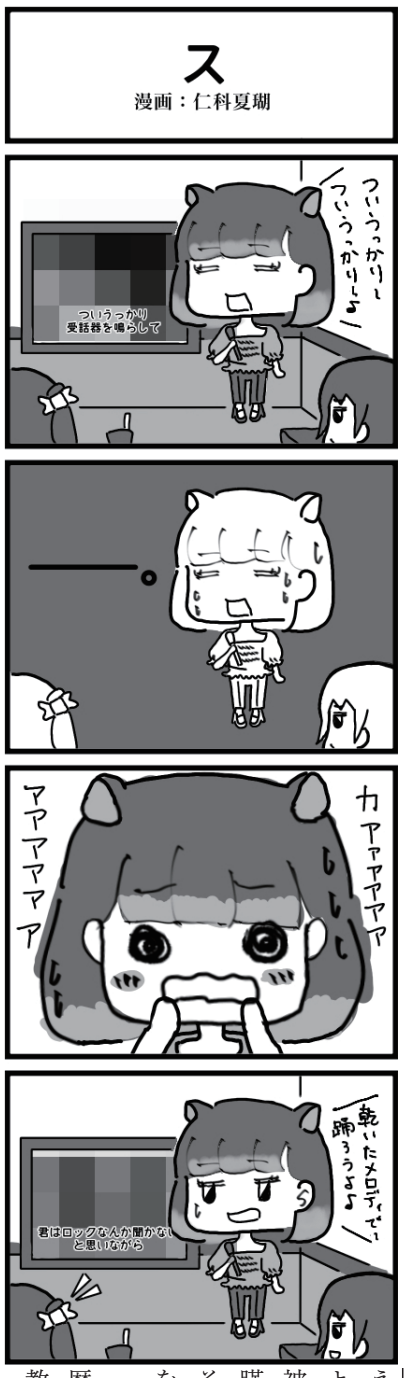
八月八日には、イスラエルの不招待を受け、G7駐日大使の式典不参加が決まった。核保有国の代表が参加しないとなると、式典自体の意義も疑わしくなり、本末転倒だ。「ロシアもイスラエルも招待する」。これ以外には、やはり妥当な線はないのではないか。それともいっそ、長崎的態度を徹底して、平和記念式典などやめてはどうか。それならば、私は断固として支持する。（文：仁科夏瑚）

「自立」と「協力」のもとに集え

クリトリスはアナーキストである！

カトリーヌ・マラブー

『抹消された快楽　クリトリスと思考』より



マンコーーー